



平成 18 年に始まった“みんなのチャレンジ・みんなでチャレンジ”も回を重ねて 6 回が終わった。毎年、今年はどんな仕掛けをして子どもたちと楽しもうかと思いを巡らせるのだが、なかなかうまくいかない。私にとっては反省点の多い事業である。しかし、これまでのみなチャレを振り返ってみると、心に残っていることがいくつかある。

一つ目は、大野が原に行ったこと。しぼりたてのミルクを使ってケーキを作るというプログラムであった。大野が原小学校の校長先生の紹介で訪問した牛舎の匂いに最初は閉口したが、慣れてくると平気になっている自分に驚いた。



二つ目は、みなチャレに参加した子どもたちが、お世話になったお礼にと食事を作ってごちそうしてくれたことである。食事もおいしかったが、何よりも彼らの気持ちが嬉しかった。

三つ目は、『和』をテーマに取り上げたグループの活動の広がりである。和菓子作りから、茶道、お茶碗作りへと活動を広げていった。茶道の先生を探して基礎の基礎を学んだり、手作りのお茶碗でお手前を披露したりと次々とチャレンジして活動を広げていくことにみなチャレの原点を見たような気がした。

そして四つ目は、初回から 6 年間欠かさず参加した生徒のことである。最初に参加した時は中学校 1 年生であった。メンバーの輪の中に入ることができず、スタッフの一人とだけ触れ合っていた。それでも翌年も参加してきた。自分を表現したり、力を合わせたりすることが苦手で、一緒にいても一人でゲームをしているような生徒だった。中学校 3 年生の頃からは開催を待ち望むようになった。次第にグループの輪に入るようになり、自分の考え等も言うようになってきた。結局高校 3 年生まで参加した。大人になったらスタッフとして参加したいと言いながらみなチャレを卒業していった。私は、毎年少しずつ変わっていく彼の姿を楽しみに見ていた。皆チャレの活動そのものが彼を変えたとは言い切れないが、少なからず影響を及ぼしていると感じている。中学校で柔道部に入部して卒業まで続けたこと。自分で高校の学科を決めて進学したこと。およそ、初めてみなチャレに参加した時の姿からは想像できないたくましい成長ぶりに、楽しみと感動を味わった。



子どもたちにいろいろなことにチャレンジして、困難なことを乗り越えながら達成感や充実感を味わわせたいと始めたみなチャレ、我々大人も事業の存続をかけて様々な方法にチャレンジしていきたい。子どもたちと一緒に楽しめるみなチャレとして。